

## 辰野町議会第12回議会報告会概要（全体会議）

実施期日 平成30年5月18日（金） PM6：30開会  
実施場所 辰野町役場第6号会議室  
出席者 74名（町民60名、議員14名） 前回町民53名  
司会進行 篠平議会報告会副実行委員長

1. 実行委員長あいさつ 堀内議会報告会実行委員長
2. 議長あいさつ 岩田議長
3. 議会活動報告内容

第11回報告会（平成29年11月17日）以降の活動状況中心に報告

内容 12月、3月定例会、臨時議会（11/21・1/11・4/23）の議案や陳情審査、町長への要望事項、各常任委員会等での活動状況等の報告

説明者 総務産業常任委員会関係 熊谷委員長から報告  
福祉教育常任委員長関係 堀内委員長から報告  
議会広報委員会関係 向山委員長から報告  
議会あり方検討委員会関係 宇治委員長から報告  
（報告内容は、第12回議会報告会提出資料参照）

### 質疑応答

#### ◇意見1

国も町も移住・定住を進めているが「空き家があってもなかなか手放さない」などの課題があり、有効な手段が得られてこなかった。それぞれが「他人事」になっている。家の持ち主、国・町・区など、共通認識で問題視できていないから手放せない。高齢になってきて、（改修などに）「金もかかるが子供に相談できない」「実のところどのくらいかかるのか」「補助を受けるにはどうしたらよいか」「どこに相談したらよいか」、一人で考えてしまって、話が上の方に上がってこなくて、結局家を手放せなくてそれで廃屋になって、景観が崩れてしまって、という悪循環が起こっているのではないかと。町民も、家を持っている人も、地域で積極的に動いている人も、行政も、議員も、全員が「自分事」として、いかにとらえるか。意見交換ができるようなつながりがあるかどうか、ここが、人口減少対策の要ではないか。そういう意見交換の場が持てていければうれしい。

#### □質問1

請願・陳情の委員会審査で、12月議会で「自民党改憲案に反対する陳情」が全員で不採択、3月議会で「緊急事態条項を憲法に設けないことを求める請願」が3対4で不採択となっている。どのような議論があったのか。

答弁：議会だよりを見ていただきたい。委員会審査と本会議での審議は別々になる。それぞれ、意見、採決の結果が出ているので、参考にさせていただきたい。本会議については誰がどういう意見を述べたかまで記載している。

#### 4. 分科会（意見交換会）会場及びテーマ

- 1) 総務産業常任委員会 テーマ「移住定住の促進について」  
町内へ移住し起業した方々と町民の皆さんの意見交換
- 2) 福祉教育常任委員会 テーマ「元気で暮らす高齢化社会」  
地域で支える高齢者介護について考える

## 分科会 1 総務産業常任委員会

### ○テーマ「移住定住の促進について」

町内へ移住し起業した方々と町民の皆さんの意見交換

(記録：瀬戸議員)

- 1 日時 平成30年5月18日(金) 午後7時20分～午後8時35分
- 2 場所 辰野町役場第6会議室
- 3 参加者 住民33名、総務産業常任委員、事務局
- 4 分科会の次第 進行 小澤副委員長
  - ①あいさつ テーマ等趣旨及び経過報告(熊谷委員長)
  - ②意見交換
  - ③質疑応答
  - ④閉会の言葉(岩田議長)

#### ○熊谷委員長

24年ほど前から辰野町では人口減少が進み、現在毎年200人ほど減少している。2万人を切って5000人減少している。町が減少を食い止めようと移住定住をすすめている中、移住された方々の思いを聞き、移住定住人口を増やしていく施策の参考になればと思う。地域おこし協力隊、集落支援員の方にも参加してもらった。どうして移住して起業したかなど話していただきたい。

#### 【意見交換：起業した方々の自己紹介】

##### ①松口さん(小野：整体・リンパマッサージ)

小野駅前ですと妻と子ども4人で昨年3月に開業し1年経った。相模原から移住した。アトピーの子どもが環境の良い場所に移住したかった。辰野に移住したのは縁です。駅前に物件が出て即決。学校も郵便局も病院も近く、空気もよい。リフォームをどこに頼めば良いかなど心配していたが、物件の縁で地域の方に助けられた。これからは、移住者に協力・支援して行きたい。

##### ②山浦さん(上島：農民かふえあずかぼ)

塩尻市出身で小さな菓子屋チャレンジショップやっていたが、自分の店が欲しかった。自分はアレルギーがあり、自然の中でやりたいと考えていた。塩尻も考えたが町の産業振興課職員や町おこし協力隊と知り合いになり、相談しお金をかけずに直していくイベントを組んでもらい、移住定住政策が力になり、資金面で踏み切れなかった部分が自分たちでなおすDIY(素人で修繕)で近所の方が知ってくれて、町広報でも扱ってもらえて、「よく頑張っているなー」と言ってもらい嬉しい。現在店の見学も多く、モデルケースとして町に還元してアピールできればうれしい。4月末で1年経った。

##### ③三村さん(川島：ゲストハウスアトリエ和音)

今年4月16日にゲストハウスをオープンした。以前どっこい所に住んでいた。小学4年の子どもがいる、自然豊かな小規模の学校が良く、運動会に参加させてもらった。アトリエも開きたかった。移住者交流の餅つきをあずかぼで行ったときに、隣の物件を紹介してもらい、ゲストハウスも運営したいと考えた。8回DIYイベントを行い県外から近所までいろんな人と出会い、地域の方に温かく応援してもらって補助金を使い商工会からも後押ししてもらって、後は客さんを待つだけ。町や地域のイベントに合わせ発信して行きたい。

④田中さん（川島：ゲストハウスアトリエ和音）

以前佐久市に住んでいた。独身なのでこれから先はわからない。移住している人が、いかに楽しく住んでいるか重要だと思う。

⑤市川さん（川島：農家民宿月のもり）

20年前駒ヶ根に1年住んでいたが、都会すぎた。水利権の問題があり、思いっきり田んぼをやりたいと思い、辰野町の渡戸で3年、今は16年になる。10年前民宿を開店した。息子がアトピーと化学物質過敏症だったので農業に危機感を持っていた。今の場所は、山から直接水が流れてくる安心だ。小規模校もよかった。有機農業がネットでつながって加入者もでき、外国、オーストラリアやアメリカから稲刈りに来る。今年はフランスから田植えに来る。日本は魅力がある。さみしいと感じている暇がないほど楽しい。辰野町は、世界に誇れる美しい素晴らしいところだと思う。

⑥金井さん（川島：古着カフェ）

2017年10月に移住。長野県の中でも30軒ほど見てきた。5年間季節労働やバックパッカーをしてきた。今の辰野町の施策維持促進をしたらうまくいく。面白いこと楽しんでやっていきたい。ライブハウス併設の古着カフェ、生演奏したら10%OFFなど考えている。地元にも音楽をやる人がいた。地元で10年近く使われていないバンガロウあり、キャンプ用に貸しテント屋も考えている。なにも不安がない。移住者は移りやすい。

⑦大瀧さん（小横川：古民家民宿おおたき）

ブティックを40年やってきて、これからは自然の中で暮らしたいと平成16年に移住。古民家物件と場所のマッチング東京から2時間半と魅力感じた。借地の畑で十分野菜などまかなえる。条件的には愛知県が良く熱心だったが、そのころまだ辰野町では移住についてあまりやっていなかった。不動産屋のホームページで家を見つけた。住みながら改装している。平成29年10月から民宿を営んでいる。

⑧内海さん（下辰野：京のおばんざい内海 居酒屋）

京都で料理の勉強をして茅野市の友人の勧めで茅野出旅館を4年間経営していた。仕事が忙しく病気になり東京へ帰ったが、親と大好きな長野県に来た。お金の面で辰野が良かった。第一回のまち歩きの時、物件を見つけられなかったが、半年後見つけすぐに購入した。早期開業の一心で業者へ改修をお願いしたが、消防法の関係で開業が12月から3月20日と遅くなってしまった。

⑨Aさん（樋口：整体）

昨年移住した。歌舞伎町の健康プラザで働いていたが辰野町のパンフレットを全く見たことがなかった。ふるさと納税したがパンフレットが来なかった。アピールがない。ピッカリちゃんのワッペンやバッチを議員全員で付けた方が良い。ピッカリちゃん・日本の真ん中のアピールをもっとしてほしい。岡谷・松本塩尻・伊那へのアクセスは良く、毎年ほたる祭りに来ていた。辰野町の売りは、ほたるより86%の森林地域だと思う。森林医療や森林保健など考えている。なぜお金をかけて移住に力を入れているのか、税金を入れてもらい民生費がまかなえるよう考えていけたら。若者向け・年寄り向けなど明確化するべきだ。来て起業している人は良いがどうやって発信していくか。私は各大使館へ手紙を送っている。アピールとして勝手連的な「やってみるじゃん」を一人でやっている。国の補助金を引っ張て来るとも必要だと思う。

#### □質問 1

移住して、住み続けてもらうためのアドバイスは？

田中さん：川島からとても良いところ。田植えを地域の人とやったことは良かった。移住者が何人かいる。面白いこともやっている。

#### ⑩溜池さん（地域おこし協力隊員）

移住定住をやっている気持ちではなく、結果それにつながっていると考えてやっている。季節を感じられる田舎が好き、古民家が好き、空き家が好きと認識している人間もいる。を受け継いでいってくれたらいいなと思う。「これがなくなったら大変だよ」を伝えていきたい思いで活動している。そういうのが好きな人が集まって自分の好きなことを頑張っている、が結果につながっていると思う。

#### ⑪赤羽さん（集落支援員）

実家が辰野北大出だが、現在妻と子どもは東京にいて、二地域居住している。辰野に戻ってきて何かしたいと考えて、楽しい町にしたい、自分が楽しみたいから活動している。もともと町にいる人も外からくる人も辰野町が楽しい町だと思ってもらえるよう活動していきたい。

#### ⑫小松さん（集落支援員 北大出）

川島に移住者が多いが、北大出もよい所。便利になってしまうと移住してくる価値観どうなのかなと思う。立地的にはよい。山梨県では、土日は帰ってきて生活するなど居住体系があるようだ。パンフレットをふるさと納税者のお礼の手紙に町の商業パンフレットを入れてほしい。アピールが大切。

職員：お礼にほたる祭りのパンフレットは入れている。

#### 小澤副委員長

「やってみるじゃん」の気持ちでみなさん取り組んでいるように感じた。今日の話をも政策へ反映していければと思う。



## 分科会2 福祉教育常任委員会

○テーマ 「元気で暮らす高齢化社会」  
地域で支える高齢者介護について考える

(記録：宇治議員)

- |         |   |            |
|---------|---|------------|
| 1 日 時   | 平成30年5月18日(金)   | 午後7時～8時15分 |
| 2 場 所   | 辰野町役場 第2会議室   |            |
| 3 参 加 者 | 住民25名、福祉教育常任委員、事務局  |            |
| 4 提供資料  | 1) ふれ愛サロン担当者会議各地区の取り組みアンケート回答集<br>①新規参加者を増やす工夫や取り組み事例<br>②男性参加者を増やす工夫や取り組み事例<br>③参加者が多かった・好評だったプログラム<br>④運営についてのご意見等<br>2) ①ふれ愛サロン「質問項目」に対する北湯舟なごみ会の回答<br>②北湯舟なごみ会のご意見等 |            |

### ○垣内委員長

辰野町の高齢者(65歳以上)の対人口比は35.9%で、県平均31.0%を超えており、県下77市町村で35番目という高い高齢化率となっています。ところが、介護保険認定率は13.9%(県平均18.1%)と県平均を下回っており、サービス給付費対前年伸び率でも、平成28年は前年を下回る数値となっています。これらのことは特定健診の受診率向上や介護予防の取り組みの成果が数値として表れていると考えられます。健康長寿に向けた取り組みが効果を上げていると評価できます。

本日の分科会では、各区で行われている介護予防事業、ふれ愛サロンの取り組みを軸に、さらに効果をあげるための方策について、実情や意見交換を行ない、今後の参考にしていただきたいと思えます。

そこで「北湯舟なごみ会」の取り組み事例について、加納巖さんにごその内容をお話いただき、そこから意見交換を進めて参りたいと思えますのでよろしくお願い致します。

### ◎加納さん

私は88歳で薬も飲んでいませんし、医者にも掛かっていませんが、難点は耳が遠くなったことです。

私の町内会には「北湯舟なごみ会」という高齢者の会があり、この会は平成19年に発足し、10年が経過しました。現在参加している人は14人です。毎月欠かさず定例の集まりを開き、何をやるかはその日その日集まったところで決めていきます。勉強会・ゲーム・運動・ものづくりなど今までに103回実施しました。

この10年間で、学んだこと、悩んだことや問題を整理しますと3つの事が挙げられます。

- ①人がなかなか集まらない悩み⇒敬老会の例を見ても参加率は1割程度です。理由は「まだそんな年ではない」と言います。
- ②誰かのために何かお世話出来ないか⇒世話役として、いろいろ資料・材料を作り、あなたならこれが出来ると声かけし、その気になってもらうために工夫することで、それを自覚してもらえる会にしたい。
- ③参加する人が楽しく参加できる材料を作る⇒今ではそれだけでは満足できない人も出てきました。

### □質問 1

最初はみんな一緒に取り組んでも、年数が経ち、役員を受けてもらう時、受ける、受けないことから、そもそも役員をやるなら入らないという現象などが出てくると思いますが、その対応はどの様にしていますか。

加納さん：難しい課題です。私達は高齢者が集まって、本人もよいし、地域にとってもよいと思うからやっているという気持ちです。大事なことは一人でもよいからやめないこと。この会に来ればあの人に会えると思える雰囲気が大事です。この会は辞めてもらっては困ると言われ今も続けています。それには毎月やること、必要と思う人が入ってくれる状態を作る。活動内容は、いつも悩みますが、希望を取り入れることです。健康の話が出れば、専門家を讀んだり、体力テストをやったり、骨粗しょう症にならない様にどうすればよいか考えたり、行政のアドバイスも得ながら、血圧測定、尿検査までいろいろやっています。

### ～意見交換での発言内容～

#### ◇意見 1

私は 80 歳です。人は助けられるだけではダメです。行動が大切と思い私は※「助人ぜんさん」に参加しています。全国組織で伊那でも始まりました。活動は、ごみ出し、病院へ行く、買い物、小さなことでは乾電池の取り換えなどのお手伝いができるサービスで、御礼は 100 円で良いのです。

来月名古屋で「100 歳になってもどうやって生きるか」をテーマに集まりがあり私も参加しますが、私の地元でも「助人さん」が出来ればよいと思っています。

※「助人ぜんさん」とは「(社)全国育児介護福祉協議会 略称：ぜんしきょう」で、後日委員長が本人に確認されたものです。

#### ◇意見 2

連合会長になって驚いたのは、36 の地区老人クラブがありますが、その内 19 クラブが脱退あるいは休会しています。主な理由は会長はじめ会の役員になり手がいないからだということです。今は 75 歳でも入る人が少なく入会者が減っていて、去年は 1,300 人から大きなクラブが 5 つ抜けたため 800 人になっています。

原因は会に魅力がないというのも 1 つですが、では魅力ある活動にしましょうと呼びかけても、今度は公民館や介護予防施設に集まる足がないということです。会で送迎しようとしても事故が起きたら責任はということになり、なかなか解決に向かわないのです。町の中心部のクラブが抜けているのも、何とかリーダーがいて引っ張っていただければよいのですが、役員のなり手については何処も苦勞しています。一旦止めるとなかなか再度まとめるのは難しいと思いますので、何とか 2 年間で一定の方向性を考えていきたいと思っています。

#### ◇意見 3

私どもは平成 19 年に区の支援を受けて、ボランティア主体の活動から、やはり会長のなり手が無くなり、区へ移行して区長経験者にどちらかと言えば、言葉は良くないが無理やり押し込んでやっていただいています。

町主導の地域社協がありますが、かしこまった活動になるためなかなかうまくいかないというのが正直なところ。地域の事は地域でという思いですが、月 1 回来られる人が集まって「おしゃべり」でもいいから進めています。その中から新しい人が私も行ってみるか、ということになれば尚いいなという気持ちで取り組んでいきます。

#### ◇意見4

私は個人の立場で、「百笑会」を立ち上げ10年間、歩いて集まれる範囲の人28人でスタートし、毎月おしゃべりや町の出前講座など考えられることをやってきました。現在は14人になり、私も後期高齢者になって、後をやってくれる人を探していますが、なかなか受けてもらえないのが悩みです。まだ継続するために何とかバトンタッチしたいと思っています。

#### ◇意見5

私は2~3年前に北大出区の福祉委員長を担当しました。各耕地から委員が選出されていますが男性はいません。役員（福祉委員）は10人で委員長が町と相談しながら進めています。活動の参加者募集チラシを出しても、確かに足の問題などがあります。しかし中には家族が送迎してくれる人もいますので大変ありがたいと思っています。

主な活動は朝9時から午後3時まで、おしゃべりを主体に、お昼寝をする方もいます。最近ではグレイスフルから指導者を迎えて月2回から1回になりましたが、いろいろの活動を福祉委員会が中心に行なっています。

#### ◇意見6

男性が集まらないのほどこでも悩みですが、小横川、上島、唐木沢、今村、宮所は男性が参加してくれます。女性はすぐ仲良くなりますが、男性はその点が苦手です。ですから宮木3丁目の様に夫婦で一家上げて参加していただくのも良いと思います。男女が一緒になれば自然に盛り上がります。平出は、囲碁がありますので男性も多いですね。皆で知恵を出し合い工夫して参加者が良かったと思えるような地域活動が増えればと願っています。

#### ◇意見7

区と福祉委員が一体で取り組んでいます。役員には区から「委嘱状」を出しており2年間お願いしています。主には体操、折り紙、お茶タイムなどを行っていますが、細かいことはムリですから、その点は留意しています。

#### ◇意見8

先ほどの宮所の男性が多いのは、立場上から区役員が夫婦で参加してくれているので有り難いと思っています。